

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	マクロ経済Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		0091		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		ビジネスコミュニケーション学科		対象学年		4	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		Macroeconomics Global Edition, by Olivier Blanchard and David R. Johnson, Pearson					
担当教員		芥川 一則					
到達目標							
①GDPの仕組みを理解する。 ②IS-LM分析と金融理論を理解する。 ③経済成長モデルを理解する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 GDPの決定要因を理解する。		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目2 IS-LM分析と金融理論を理解する。		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目3 経済成長モデルを理解する。		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		実際の経済問題と関連づけながら、経済学、特にマクロ経済学の基礎理論を学習する。 この科目は、地方自治体で予算等の財政を担当した教員がその経験を活かし政府の投資が経済に与える影響を具体的な事例等を交えて授業を行う。					
授業の進め方・方法		中間試験は50分の試験を実施する。期末試験は50分の試験を実施する。 定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
注意点		基本的な経済用語の復習に十分努めること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	The Labor Market (Ⅰ) 労働市場		労働市場と失業率		
		2週	The Labor Market (Ⅱ) 労働市場		労働市場と失業率		
		3週	The Phillips Curve, the National Rate of Unemployment, and Infulation (Ⅰ) フィリップ曲線と失業率およびインフレーション		フィリップ曲線と失業率およびファンフレーションの関係		
		4週	The Phillips Curve, the National Rate of Unemployment, and Infulation (Ⅱ) フィリップ曲線と失業率およびインフレーション		フィリップ曲線と失業率およびファンフレーションの関係		
		5週	From the Short to the Medium Run (Ⅰ) IS-LM-PCモデル		IS-LMモデルとフィリップ曲線の関係		
		6週	From the Short to the Medium Run (Ⅱ) IS-LM-PCモデル		IS-LMモデルとフィリップ曲線の関係		
		7週	前半のまとめ		前半のまとめとこれまでの評価		
		8週	後半に向けて		期末試験の評価と前期のまとめ		
	4thQ	9週	The Facts of Growth 経済成長		経済成長の概念		
		10週	Saving, Capital Accumulation and Output (Ⅰ) 貯蓄と資本蓄積および生産		貯蓄と資本蓄積および生産の関係		
		11週	Saving, Capital Accumulation and Output (Ⅱ) 貯蓄と資本蓄積および生産		貯蓄と資本蓄積および生産の関係		
		12週	Technological Progress and Growth (Ⅰ) 技術進歩と成長		技術進歩と経済成長		
		13週	Technological Progress and Growth (Ⅱ) 技術進歩と成長		技術進歩と経済成長		
		14週	後期のまとめ		後期のまとめ		
		15週	後期のまとめ		後末試験の評価と後期のまとめ		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。		1	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。		1	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		1	

			公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
専門的能力	分野別の専門工学	経済・ビジネス系分野	経済	国民経済計算について説明できる。	4	
				4 5 度線分析について説明できる。	4	
				IS-LM分析について説明できる。	4	
				総需要・総供給分析について説明できる。	4	
				国際経済について説明できる。	4	
				経済成長論について説明できる。	4	
評価割合						
			試験	課題	合計	
総合評価割合			80	20	100	
基礎的能力			40	10	50	
専門的能力			20	5	25	
分野横断的能力			20	5	25	